

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600137		
法人名	有限会社 ライトマインド		
事業所名	グループホーム花縁ときわ館 (椿)		
所在地	苫小牧市ときわ町3丁目4-14		
自己評価作成日	平成24年9月6日	評価結果市町村受理日	平成24年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="mailto:grouphome-kaen@rouge.plala.or.jp">grouphome-kaen@rouge.plala.or.jp</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニット内の入居者・スタッフ共に個性がありその個性を尊重し発揮しながら関わり合う事ができていると感じている。チームやホーム全体がより良くなる事を目標に課題解決やケアの方向性を統一するための話し合いと対応を心掛けている。不十分な事もあるが入居者一人ひとりの想いに目を向け状況に見合った柔軟な対応に繋がる様にチームで話しあいながら情報収集と共有を心掛けている。外部・内部の研修を取り入れスキルアップに繋がる様に努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念を作りスタッフ全員で共有し意識して努めるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野外行事や七夕の際に近隣にすむ子供たちが来訪したり、散歩中に挨拶をかわす程度。近隣の店に月に二回買い物に出向いたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	古紙回収に参加している。町内のゴミ拾いなどをしたりしているがまだ十分ではない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	全員が出席しているわけではないが、伝達・報告などはされている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長以外は携わっていないが、何かあれば伝達等を受けている。苫小牧市で始めたいいきポイント事業に参加しボランティアさんに来てもらおうと考えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を受けたり内部研修でも定期的に取り上げている。日頃からスタッフ同士で話し合いをしたり意識してケアにあたっている。施錠は夜間の決められた時間のみで行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様		

グループホーム花縁ときわ館（椿）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学ぶ機会があるが新人も含めての理解は十分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一般スタッフは直接的に関わる事が少ないが、ケアプラン改正の際にはご家族に話を伺う等している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したりしている。家族会などででた意見等はスタッフにも伝達している。日頃からご家族の意見要望はこちらから伺う様にしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーがスタッフの意見を聞いて代表者に伝える等している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度の導入に合わせて各自の経験値や能力に見合った研修の参加などがある。小さな意見でも聞き入れて出来る限り取り入れてくれる事が多い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な外部・内部研修が設けられており、日常的に指導される事やする事がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間を通して実習生の受け入れがあるためその際に意見交換をしたり、研修後の懇親会に参加する事もあるためその時に交流したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最近新しく入居された方はいないが、入居時には施設長より要望の伝達があるほか、スタッフの方からご家族やご本人に直接伺うなどしている。又本人の様子から情報収集して想いをくみ取りケアに反映させる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめにこちらから声を掛けるようにし、スタッフ間での情報収集と共有を行い良い関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長から伝達を受けたり、馴染みの病院等の継続や本人と家族に無理がない様に配慮している。早急な見極めが難しい事もあるが出来るだけ努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人間同士の関わりを意識し『認知症』と言う疾病にとられない様にしている。喜怒哀楽を共に感じ共有したいと考えてケアにあたっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時には細かく近況報告をするようにしている。ご家族の意見を取り入れたり遠方に住むご家族に電話での交流を行う等、個人に合わせて広い視野での関わりをするようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族とゆっくり過ごせる様な配慮や、本人の希望がある時にご家族の了解を得て自宅の庭をみに行ったりなどした。来訪時の時間制限などはなく希望があれば出来るだけ沿う様に対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが介入したり孤独感を感じない様にしている。入居者同士の相性を把握して楽しく過ごせる様に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りをさせていただいた方の配偶者にあたる方の相談を引き続き受けたり、その後も遊びに来ていただく事があった。偶然町で出会う事もあるのでこちらから声を掛けいつでも遊びに来てほしいと声を掛けたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ライフスタイルの維持に繋がる様に日常的な情報収集とカンファレンスでの意見交換と伝達を行っている。ケアプラン改正時には必ず検討して項目に取り入れる様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフのアセスメントの他にご家族記入の情報提供の書類を参考にしたり直接、ご家族に話を伺ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の申し送り、意見交換を徹底し変化に気が付ける様に努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員で話し合いとモニタリングを行い、カンファレンスにはご本人に参加していただいたりご家族の意見を反映させるようにしている。4か月に一度現状に見合ったケアプランを作成し現場スタッフがプランニングにも参加している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシート、センター方式シートの活用を行い情報収集するほか日常的にスタッフ間で話し合う様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不十分な事もあると思うが努力している。ご家族の希望で月に一度の外泊の対応や、往診の利用や状況に応じ訪問看護を利用する事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源の把握がきちんとできていない事もあり十分ではないが地域での買い物やゴミ拾いを月に数回行う様にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度、状況におうじて二度の往診を受けているほか、緊急時にも往診・訪看の導入など迅速な対応を心掛けている。		

グループホーム花縁ときわ館（椿）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に医師に伝えるほか、特変時は施設長・副施設長への迅速な伝達を行い緊急の往診や訪看導入に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	最近に入院した方はないが病院スタッフに情報提供を細かく行ったり、こまめにスタッフが面会に行く様になっている。術後は早めに退院できるように病院側をお願いするようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設長と管理者で契約に携わりスタッフに報告している。チーム内で話し合いを設け看取りケアの統一を計る様にしている。ご家族の要望は細かく聞く様にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの訓練や緊急時の対応を研修で行っているが頻度もすくなく実践例がほとんどないので実際の場面できちんと行えるかは解らないし十分とは言えない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行う様にしている。今年春には、シナリオなしの火災による避難訓練実施。8月は津波想定による訓練を行った。9月は夜勤帯想定の訓練を予定しており今後もコンスタントに行っていきたい。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を把握し尊重しているが、十分とはいえないかもしれない。守秘義務は守れていると感じる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いを伝えやすくなる様な関わりを重視している。本人の自己決定を促す様に日頃から努力はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記同様		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を導入している。好みの理解に努め、女性には女性らしい身だしなみ(メイク)のお手伝いを心掛けている。		

グループホーム花縁ときわ館（椿）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに応じてメニューを変更して提供したり、ペーストでの提供が必要な方の食事は美味しく提供できるように必ず味見をしている。食事作りには出来るだけ参加を促している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く摂取できるように盛り付けや調理提供の仕方に工夫をして各自に見合った方法を取り入れる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の口腔ケアをしている。必要に応じて口臭予防などのケア用品を購入し対応したり各自に応じた方法を工夫している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人が出来るだけ『自立』していると感じられる様な対応の工夫を心掛け、紙パンツやパッドに頼りすぎない様にしながら必要におうじては、各自に合う物を考慮し使用している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼りすぎない様に、食事・水分のバランスなども気配りし運動も視野に入れながら対応している。各自の排便リズムを把握するように肛門マッサージなどを取り入れる様にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回の入浴になる様にし、本人の希望があれば出来るだけ対応している。午後からの往診日などは午前中に入浴を行う事もあるが以外は午後からの対応になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量が多くなるように気を付けたり、本人の好む場所での睡眠を促すほか出来るだけ眠剤に頼らず、不眠の原因を細かくアセスメントをするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の効能・副作用は出来るだけ把握しているが臨時薬に関しては不十分であり努力したい。スタッフ間の理解にもばらつきがあり十分とは言えない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出などの気分転換の促しをしたり、女性に対しては家事作業導入など充実感が生まれる様に工夫はしているが、男性に対しての役割の定着が少なく十分といえないかもしれない。		

グループホーム花縁ときわ館（椿）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ行ったりしているが、回数は多くない。ほとんどはスタッフが対応しているが、数名はご家族が定期的に対応している事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名がお金を所持しているがほとんどは買い物などの訴えはあまり聞かれない。しまった場所が解らなくなる方も多いのですぐに対応出来るように家族にも協力していただき時々確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に毎日電話を掛けている方や、遠方の家族と電話で交流を取る方もいる。希望に応じる時とスタッフから促す時がある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の写真を飾ったり、ホール内に休憩できる家具を多く設置し照明器具は間接照明と部分的なスポットライトで解りやすくしている。季節感の変化は解りにくく十分とは言えない。環境音に配慮し不快な音が少なくなるように意識している。年間目標として整理整頓を意識して取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが自由にくつろげるように配慮したり、気の合う人同士の団欒を促したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に設置できるものは出来るだけ持ちこんでいただいている。各自にとって馴染みのものや大切なものは把握し共に大切にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印を付けたり、その時の状況に合わせた環境作りをしている。		